

# 国際演劇交流セミナー2014 ロシア特集Ⅲ

【ダイジェスト版】

## 新進気鋭の演出家エヴゲーニィ・ピサレフによる演出家・俳優のための戯曲へのアプローチ チャーホフの戯曲『三人姉妹』

プーシキン記念モスクワドラマ劇場の芸術監督として活躍する新進気鋭の演出家エヴゲーニィ・ピサレフ氏による東京・名古屋の2都市開催集中ワークショップ。チャーホフの戯曲「三人姉妹」を題材に演出家、俳優のスキルアップを目指し、演出家は作品を捉え構築する為の具体的な道のり、俳優は具体的な演技に繋げる為の戯曲の読み方、そして演出家と俳優の創造的な相互関係とは如何なるものなのかなど、創作において両者にとって必要不可欠な能力や技術を【作品創作におけるスタニスラフスキー・システム】を元に養い向上させることを目的とした。固定したイメージが持たれるチャーホフ作品やロシア演劇への新たな可能性と側面を発見し、真の意味で古典に現代の息吹を吹き込む道のりとは如何なるものなのかを探る機会となった。

共催：(公益財団法人) 名古屋市文化振興事業団 (名古屋市青少年文化センター)

【in 東京】会場：芸能花伝舎 2014年11月24日(月)～30日(日)

○ 講師 エヴゲーニィ・ピサレフ

●ワークショップ

11月24日(月) 17:00～21:00 / 25日(火) 11:00～15:00 / 26日(水) 11:00～15:00  
27日(木) 11:00～15:00 / 28日(金) 11:00～15:00 / 29日(土) 11:00～16:00  
30日(日) 11:00～16:00 (14時～16時、レッスン一般公開)

【in 名古屋】会場：名古屋市青少年文化センター(アートピア) 2014年12月1日(月)～7日(日)  
7階・第1スタジオ

●ワークショップ

12月1日(月) 18:00～21:00 / 3日(水) 18:00～21:00 / 4日(木) 18:00～21:00  
5日(金) 18:00～21:00 / 6日(土) 17:00～21:00 / 7日(日) 11:00～17:00 (15時～17時、レッスン一般公開)



○講師プロフィール



## エヴゲーニイ・ピサレフ

プーシキン記念モスクワドラマ劇場芸術監督。 ロシア功労芸術家。

演出家・俳優。

1993年モスクワ芸術座付属演劇大学卒業。同年より、プーシキン記念モスクワドラマ劇場の俳優として主要な役柄を演じる俳優として数多くの作品に出演。モリエール『スカパンの悪だくみ』、ゴーゴリ『検察官』他。

1996年より演出家としても活動しはじめる。主な演出作品に、J. サリンジャー『エズメに一愛と悲惨をこめて』、ケン・ラドウィック『レンド・ミー・ア・テナー』、シェークスピア『から騒ぎ』など。

1999年よりモスクワ芸術座付属演劇大学の教員。イギリスの演出家デ克蘭・ドネランの演出助手として、プーシキン『ボリス・ゴドゥノフ』、シェークスピア『十二夜』、チャーホフ『三人姉妹』などの作品に携わる。

2007年～2010年にはハーバード大学「スタニスラフスキー・サマースクール」の講師を務めるなど海外でも活躍。

2010年よりプーシキン記念モスクワドラマ劇場の芸術監督。

## ロシア特集Ⅲ【東京】

### ●ワークショップ1日目

**ピサレフ** 始まりはいつも難しいものです。しかし、これから知り合いになってこの1週間で皆さんと私にとっても、意義のあるものにしたいと思います。このワークショップでは私だけが講義のように話をして皆さんに教えるというのではなく、会話形式で皆さんと話しながら進めていきたいと思っています。皆さんがなにを考えているのか、何を知っているのか？

ロシアの演劇システム、スタニスラフスキー・システムの代表として私はここにいるので、皆さんがより深くシステムについて知ることができるようにしたいと思います。

最初に3分間で自己紹介をしてください。まず私からはじめます。私の名前はエヴゲーニィ・ピサレフです。モスクワで生まれて、学び、働いています。子供の頃から演劇に興味があり、児童演劇サークルで参加し、俳優になりたいという夢を持っていました。モスクワ芸術座の附属演劇大学に入学し、ユーリー・エリョーミンという先生に学びました。彼のクラスで学んだ4年間で俳優になりたいという夢ではなく、演出家になりたいと思いました。そして、俳優としても活躍し舞台だけではなく映画にも出演しました。その後、エリョーミン氏の演出助手から始めて、演出家の勉強をしました。10年ほど前に初めて演出をしました。思いがけず大成功を収めました。その後モスクワ芸術座に呼ばれ、副芸術監督にも就任しました。芸術座ではとても良い経験をさせていただきました。4年前からプーシキン記念モスクワドラマ劇場の芸術監督に就任しました。

では、皆さんにも自己紹介をしていただきたいと思います。

・自己紹介をする

**ピサレフ** ありがとうございます。とても興味深かったです。私は今、この場において、スタニスラフスキー・システムの代表者ですと言いましたが、スタニスラフスキー・システムの完全な代表者とは言えません。スタニスラフスキーが生きていたのは100年前のことです。もし彼が現在生きていれば、彼の方法論はもっとシステム化されていると思います。彼の書いたものは散文化されていて、明確にこうしなければいけないと書かれたものではないからです。

システムは記録されていますが、常に色々なバリエーションを持っています。スタニスラフスキーは、1920年代にアメリカに行きました。アメリカ人の



方が実務的で、スタニスラフスキーの研究をステラ・アドラー、リー・ストラスバーグがします。彼らが書いている本は、自分に適応させて書いたものです。それは正しいことだと思います。時代が変わり、私たちの生活のリズムも変わっています。しかし、基礎になるものは変わりません。そもそも俳優であることを教えることは不可能です。芸術家の才能は天からの授かりものなのです。演劇大学や、ワークショップでは何を学ぶことができますでしょうか？ 出発点を知ることです。自分に何を問いかけるか？ どのように戯曲を読むか？ 舞台上で緊張しないか？ 注意力の発達などです。

話を始める前にみなさんに質問をしたいと思います。俳優の芸術とは一体なんなのでしょうか？ 答えるのを恐れなくてください。いつもこの質問をすると、なぜか大きな「間」が生まれます。化学者に「化学とは？」、画家に「画家とは？」と聞くと答えがあるのですが、なぜか俳優は考えてしまうのです。

**参加者** 俳優は与えられた役をどのように生きて、1つの戯曲の中のピースになることが重要だと思っています。演出家が出すプランをそのまま体現するピースではなく、演出家の想像力をより超える自分なりのその役を提供していくことが結果として芝居を成功させ、観客も増え、ギャラがもらえると思います。

**ピサレフ** 興味深いですね。でも、一体どんな作業をしていますか？

**参加者** 台本と自分の身体を使って、与えられた役の人間を作っていくことです。

**ピサレフ** 役を作るとはどういうことですか？

**参加者** 台本に書かれていないところ、キャラクターも私たちと同じように悩みや喜びがあると思います。

**ピサレフ** そうですね。ただ、皆さんの話にないものがあります。何をしなければならないかということです。皆さんの話は結果であって、何をするかは始まりです。日本の俳優は分かりませんが、例えば英語で「actor」とは何を意味する言葉でしょうか？

**参加者** アクションを起こす人です。

**ピサレフ** 俳優とは「行動する人」です。俳優は舞台上で行動しなくてはいけないものと認識すれば、出発点を得たということになります。実生活でも、舞台でも与えられた状況の中で行動しています。違いは、舞台や映画では与えられた状況は前もって戯曲や、台本に書かれています。与えられた状況とは何でしょうか？ 私たちは真空状態で何もなくて行動しているわけではないですよね？ 私たちは一定の条件で行動しています。私たちの行動は英語で言うと便利です。5つのWです。「いつ？」「どこで？」「誰と？」「何を？」「なぜ？」です。この戯曲の進行はいつなのか？ どこで行われているのか？ 誰と起きているのか？ 何が起きているのか？ なぜ起きているのか？ 役割、戯曲を調べようとするとき、まず戯曲にアプローチすることからはじまります。『三人姉妹』を読みましたよね？ この戯曲を選んだ理由は1週間で作品を作るためではありません。この戯曲を使って与えられた状況、事件を分析するためです。この戯曲はいつ起きていますか？ なぜ知らなくてはいけないのでしょうか？

**参加者** なぜ働かなくてはいけないかということがテーマになっている、キーワードして出てきます。それは何かロシアに変化があったというような時代背景があるのかなと思います。



**ピサレフ** 正しいと思います。しかし、まず時代背景を理解しなければいけないのです。その時代の法則、伝統を理解しなければいけません。『三人姉妹』にアプローチしようとするのであれば、注意は大きなところから小さなものに持っていきます。

まず 20 世紀の話です。1903 年に書かれた戯曲です。さらに注意の対象を狭めましょう。春の出来事です、5 月 5 日です。さらに細かくすると何時ですか？ など、戯曲を読んだときに分かる与えられた状況です。私たちが推測したり考えたりしなければならないのは演出的な作業になります。戯曲から得られるものは最大限に綿密に戯曲を読み込むことです。

今、私が話したのは『三人姉妹』の第 1 幕のことで。この戯曲は 4 幕からなっています。明日までにこの戯曲の各幕がいつ起きているのか？ どんな天気なのか？ 見直してください。そのことによって登場人物の気分、雰囲気、感情の温度を知ることができると思います。戯曲はオリガのセリフからはじまります。春を感じ、希望と展望を感じるセリフがあります。

2 つ目の問いです。「どこ」で起きているのか？ まずロシアで起きています。さらに狭めるとどこでしょうか？

**参加者** 県庁のある都市です。

**ピサレフ** そうですね。あまり大きくない都市です。近くに川がある。北ではない、シベリアでもない。さらに狭めましょう。プロゾロフケの家です。どの部屋でしょうか？ 客間で起きています。

「いつ」「どこで」を明確にすれば何が起きているかが分かると思います。1 番重要なことに近づいていきます。どんな戯曲であっても根底に「事件・出来事」があります。「事件」とはなんでしょう？

**参加者** それまでのストーリーの流れを変える出来事です。

**ピサレフ** 正解です。事件とは何かの事実です。私たちの目前で起きたか、起きている事実です。登場人物に直接作用している事実です。まず最初に元になる事件を明確にしなければなりません。1 番最初に何かが起こり戯曲は始まります。「事件」には大きなものから小さなものまであります。1 番最初の事件（導入の事件）は登場人物の多くに関係する事件であることが望ましいです。しかし各登場人物によって関わり方が違うと思います。1 人 1 人の人物がなぜここにいるのかというニュアンスは違うかもしれませんが、しかし関わりがあるということです。

『三人姉妹』の導入の事件とは何でしょうか？

**参加者** 軍が町にやってくる。

**ピサレフ** これは与えられた状況です。大勢の軍隊がやってきた。部隊がやってきた。三人姉妹の父親の死というのは過去の出来事で与えられた状況なのです。例えば、1週間前に財布を失くすとします。しかし今の私にとっては過去の事件なのです。登場人物の人々が舞台上に、ここに出てくるきっかけとなった事件とはなんでしょうか？ スタニスラフスキーも自分の役の人生の経歴を詳細に書き出して、知り尽くすようにと言っています。しかし、三人姉妹の戯曲の導入の事件というのは「イリーナの名の日」です。このお祝いに招待されて集まった人々です。

**参加者** 質問してもいいですか？ 私はヴェルシーニンが来たことが事件だと思っていました。「イリーナの名の日」のお祝いは与えられた状況だと思っていました。

**ピサレフ** 私たちは物語の最初である導入の事件について話しています。ヴェルシーニンが来るというのは戯曲の中で知ります。事件は事件ですが、導入の事件ではありません。それからヴェルシーニンがモスクワから来たという事件に対して登場人物によって受け止め方が違います。ある人によっては大きな事件ですが、別の人にはそうでもないかもしれません。

事件には肯定的な事件と、否定的な事件、不明瞭な事件とがあります。例えば天井が崩れ落ちるとします。私たちはこの部屋から逃げます。否定的な事件です。また、宝くじを買って当たったとすると肯定的な事件です。天井が落ちたときに私たちがどんな感情、気持ちになるかではなく、その状況を信じて行動することです。行動をとることによって感情が生まれてきます。

**参加者** 事件を肯定的なもの、否定的なものに振り分ける必要はありますか？

**ピサレフ** おそらくあると思います。しかし、事件を分けるのではなく行動を分けます。事件は不意に起こるものです。3つの事件について話しましたが、3つ目の不明瞭な事件です。解明しようとする行動です。ドアがノックされます、誰がいるのか？ 良いことなのか？ 悪いことなのか？ 分かりません。素早く解明できるわけではありません。行動はどんな戯曲の中でも交代していくものです。次に解明しようとする行動は、反発して離れようとするか、引き寄せられるかのどちらかです。ヴェルシーニンがやった来たという事件は良いことなのか？ 悪いことなのか？ まだ良く分からない状態です。しかし、マーシャにとっては彼を好きになり引き寄せられる行動になり、またある登場人物にとっては否定的な人物となるかもしれません。大きく分けると3つの事件の種類、3つの行動の種類があります。カラーコピーも色の3原色（赤、青、黄）から多種多様な色が生まれます。引き寄せる行動でも攻撃的だったり、優しく哀願するような、間接的であったり様々な行動があります。何れにしても引き寄せたい行動には変わりはありません。

最初に幾つかのシステムの用語について話したいと思います。それを元にワークショップを続けたいと思います。

少し休憩をしましょう。



**ピサレフ** 続けましょう。俳優とは行動をする人です。行動には3種類あります。引つける行動、引き離す行動、解明する行動。俳優は与えられた状況の中で行動します。5つの問いがありました。覚えていますか？

**参加者** 「いつ」「どこで」「誰と」「何が」「なぜ」です。

**ピサレフ** 「何が」は大切です。事件は大きなもの、小さなものがありますが行動はここから始まると言ってもいいでしょう。チャーホフの作品を扱うのでこの話をしています。ヨーロッパの演劇は3つの時代に分かれると思います。第一の時代はギリシャ・ローマ悲劇です。主人公は神々、皇帝などです。その次はシェークスピアとその同時代の演劇です。主人公は皇帝や王だけでなく、墓掘り、酔っ払い、強盗、殺人犯など多彩になってきます。そしてチャーホフの時代です。ポドテキスト（テキストの裏に隠されたテキスト）が出てきます。外面的、内面的とでは全く違うことが起こっているのです。「第二のプラン」という用語も関わってきます。

外面的な行動と内面的な行動は一緒のこともあります。例えば財布を盗まれた、犯人を追いかける、取り返す。これは一致しています。しかしチャーホフでの作品ではそうではありません。例えば今、私はみなさんに話をしています。通訳が訳してくれています。しかし私の内面では、「この通訳からどうやってお金を借りようか？」と考えながら話をしています。このようなときは外面と内面が違いますよね。チャーホフの作品では一致しないことがよくあります。

次の大切な質問に移りましょう。事件は「誰と」起こっていますか？ 俳優たちは与えられた状況の中に存在しなければなりません。戯曲が私たちに与えている状況をピックアップしましょう。登場人物の経歴書を作りましょう。例えば、開放的か閉鎖的か？ 早いか遅いか？ 最初は大雑把な質問をしてください。みなさんはどう思いますか？

**参加者** 好きか嫌いか。

**ピサレフ** そうですね。

**参加者** 何を望んでいるか。

**ピサレフ** これは漠然としています。何を望んでいるか？ どこへ行きたいか？と聞くことがあると思いますが、何を恐れているかです。否定的を試してみてください。「私は俳優になりたい」よりも「不器用で、才能のない俳優になりたくない」の方が強いでしょう。

私は以前『三人姉妹』の3幕の稽古をしていました。火事のシーンでオリガが火事があった人々のために洋服や毛布などを分けています。オリガ役の女優に聞きました。「なぜオリガはそうしてるのですか？」女優は「オリガは秩序好きだから」「そうですね、でもそれだけでは十分じゃないですよ」と、私は言いました。彼女は秩序が好きだからではありません。彼女は無秩序、混沌を恐れているのです。彼女はそれを理解した後、その行動をすることができました。他の役でもそうです。クルイギンは聡明で賢い人間と見られたい。それよりも、愚かな人間と思われるのを恐れていると理解した方が良いと思います。

何が好きで何が嫌いか。何を恐れているか。他には何かありますか？

**参加者** 誰が好きで、誰が嫌いか？

**ピサレフ** 例えばマーシャについてです。彼女は何を恐れていますか？

**参加者** 退屈な人生。

**ピサレフ** おそらくチェーホフの登場人物ならみんなそう思うでしょう。マーシャの状況での情報だとしたら？ マーシャは結婚に失敗した。けれどもそのことを他の人に知られたくない。内面は不幸でも、外面は幸せそうに振る舞うでしょう。このことについてはまた後で話しましょう。

皆さんに質問です、登場人物の経歴書を作るためにはどんな質問をしたら良いでしょう？

**参加者** どんな気持ちか？

**ピサレフ** それはこの場面自体に問題を絞っています。そうではなくて戯曲から分かる登場人物の性格です。善良な人か意地悪な人か？というような大雑把な質問からはじめましょう。チェーホフの登場人物は一見複雑そうに見えます。彼は医者でしたから、ものの見方がプロフェッショナルです。ロシア人ではないのではと思うほど客観的です。彼に対しても好感を持つ人、そうでない人がいると思うのですが、この人物は悪人、この人は善人というのがあります。ドストエフスキーやトルストイは自分の立場を濃厚に出しています。しかしチェーホフでは全員が不幸せで、裁く側と裁かれる側という立場ではありません。

4幕でチェーホフはクルイギンにマーシャを慰めるシーンを書いています。クルイギンはヴェルシーニン以上にマーシャを愛していたと思います。ヴェルシーニンは妻と娘を捨ててマーシャを選ぶことができなかったのか？ 事件を正当化しなければいけません。事実はいくらでも事実です。三人姉妹は常にモスクワへ！ モスクワへ！と言っていますが何が彼女たちがモスクワに行くのを妨げているでしょう？ 切符を買ってモスクワに行けばいいのになぜしないのでしょうか？ そのことについても話していきましょう。

課題です。『三人姉妹』の登場人物で自分が考えてみたい役の経歴書を明日までに作ってきてください。今、役が決まっている人は教えてください。ワークショップで演じる役ではありませんので、経歴書を作りたい役を言ってください。

・参加者、それぞれ役の経歴書を作る人物を決める

**ピサレフ** 明日、皆さんが考えた経歴書を分析しましょう。どのような性格、性質が自分の選んだ役と近いか考えてください。自分の中にも見い出せるかを考えてください。自分と似ているか、似ていないか？ 似ているというのは聡明さ、善良さ、親切さです。登場人物が怠け者で、怒りっぽいとしたらどのように演じますか？ スタニスラフスキーは「3歳の子供であっても自分に害を及ぼした人であれば苦痛を味わわせたいと思うはずだ」と言っています。



ミハイル・チェーホフを知っていますか？ スタニスラフスキー・システムをさらに発展させた人です。彼は「俳優は強力な想像である」と言っています。いい俳優は自分自身の中にそれを見つけて発展させます。役を構成するには3つの原則があります。

1つ目は感情（心理的、身体的）の記憶です。俳優という職業は、親しい人のお葬式であっても無意識に人々、その場の雰囲気を観察しているものです。もちろん悲劇的な出来事だけでなく、楽しいことでも同じです。非常に心をえぐるような感情だったときなど皆さんの人生の経験したことが、俳優としての役を引き出しとなっています。人によっては想像力によって心理体験をすることができることもあります。

2つ目、観察です。感情の記憶は重要なことですが、スタニスラフスキーも晩年は感情の記憶から遠退いて観察とエチュードを重視していました。観察は他人を観察して見いだすこともできます。

演劇大学では観察のために生徒を様々な場所に行かせます。駅で人々を観察して、エチュードにしてもらいます。自分の内側からだけでなく、他人を観察して発見することもできます。

3つ目は芸術、文学の世界です。絵を読むことができる。音楽を読むことができる。絵の中、音楽を聴いて役を作る上で役立つこともあります。

心理技術は1週間のワークショップで身につくものではなく、毎日の訓練が必要です。バレエダンサー、声楽家のように日々の訓練が必要なのです。しかし、俳優は怠け者です。日々の訓練を怠りがちですがそうではありません。

## ●ワークショップ2日目

**ピサレフ** 今日もワークショップを続けましょう。皆さん今日からの参加の方がいますので、昨日私が話したこと、昨日発見したこと、再確認したことを人と重ならないように彼女に話してあげてください。簡単にことでいいですよ。

**参加者たち** ・ミハイル・チェーホフが俳優は強力な想像であると言いました。

- ・～をしたいと思って行動するよりも、～を恐れていると思って行動する。
- ・戯曲の中の時間を探る時に大きなものから始める。
- ・戯曲を読み解くうえで大切なのはより多くの人に関わっている事件を見つけること。

**ピサレフ** 導入の事件からはじめることです。

**参加者** 事件に対する行動として3つあります。引き寄せる行動、反発する行動、どちらか分からなくて解明する行動。

**ピサレフ** 誰かを好きになったとします。スタニスラフスキーは「まず最初に触れたい、見たいという願望があるはずである」と言っています。これを行動のプロセスで言うのであれば、引き寄せる、反発する行動、解明する行動になると思います。では次の人。

**参加者** 俳優は舞台に立つ時に注意力が必要です。

**ピサレフ** 見ること、聞くこと、感じる必要があります。スタニスラフスキーは集中と注意を特に大切に思っています。では、集中と、注意の違いを言える人は？

**参加者** 集中は過去、集中は現在進行形ではない。注意は現在です。

**ピサレフ** 独創的な意見ですね。集中とは移行の時期に必要なことだと思います。集中とは内側にあるものです。内部のメカニズムです。しかし舞台上では集中は助けられません。舞台上では事件は絶えず起きていますので、注意が必要なのです。視覚、聴覚、触覚、嗅覚などの注意が必要なのです。起きていることは私たちの外側にできています。今日の朝の様子を話してください。皆さんは彼女を注意深く見ていてください。何時に起きましたか？

**参加者** 朝 8 時 30 分に起きました。着替えをしました。お湯を沸かしました。朝食はシチューとご飯を食べました。

**ピサレフ** あなたも話してください。家からここまでどのように来ましたか？

**参加者** 今日は雨だったのでいつもは自転車ですが、電車で戯曲を読みながら来ました。電車はそれほど混んでいませんでした。

**ピサレフ** 2 人とも顕著な例でした。今日のお昼か夕食は何を食べたいですか？

**参加者** サンドイッチみたいなものが食べたいです。

**ピサレフ** ここでストップします。過去にあったことは、未来のことを話すときに目で空中を見ながら話していました。常にどこか外側を向いていました。私たちの注意の対象は外側にあるということです。行動について話すとき、無人称の行動はありません。何かに向かって行動しています。スタニスラフスキーは「ヴィジョンのフィルム作り」と称しています。人々が何かを見ている、受け止めているから変化が起きるのです。続けましょう。

**参加者** 登場人物たちがどのような出来事があって舞台にいるのか？ これが事件です。

**ピサレフ** 登場人物は何かの課題、事件によって舞台上に現れます。舞台に登場する前にどんな目的で何を変えるために出て行くのかを考えなければいけません。



**参加者** 何かに恐れているというように否定的な要素を持つと行動しやすい。

**ピサレフ** 繰り返していますよ。注意深く聞いていてください。

**参加者** 役を構成する3つの源泉。1つは自分の感情の記憶、2つ目は観察、3つ目は文学や絵画、音楽から印象を受ける。

**ピサレフ** この3つの中で何が1番あなたに近いですか？

**参加者** 感情の記憶です。

**ピサレフ** これは1番大切です。しかし2、3番目の源泉も必要です。『リチャード三世』を演じるとしたら、人殺しをしたことがないとしたら、夢中になる対象が必要です。シューキン記念演劇大学では外面から内面に取り込む手法を重視しています。内面から外面、外面から内面、その人にとってより役にたつ方法で取り組めば良いと思います。助けになるのです。自分からより遠いものであればどうしますか？ 80歳のおばあさんの役を演じるとしたら、おばあさんを見て想像できるかもしれません、かつらをかぶったり、足に重りをつけたりするかもしれません。結果的に1つの真実に向かっているのは変わりありません。

猿まねをするということもあるかもしれません。真似をするということからはじめて、真実を見つけていくという方法もあるでしょう。

**参加者** 俳優は行動する人です。

**参加者** 戯曲にある方法として5つの質問「いつ」「どこで」「誰と」「何を」「なぜ」です。

**ピサレフ** これは与えられた状況です。

**参加者** チェーホフは戯曲の中で誰が悪人、善人という書き方をしていない。

**参加者** 先ほどの5つの質問のなかで1番大事なのは「何を」です。

**ピサレフ** なぜ大切かという演出に関わることです。演出家は俳優とだけ仕事をするものではありません。解釈する人もあります。現代の戯曲（芝居）は自分の視点なしではあり得なくなっています。演出は正当化されるのであれば、与えられた状況を変えることができます。例えば「いつ」です。『ロミオとジュリエット』を演出するとき、戯曲の時代を現代に置き換えることもできます。「どこで」も変えることができます。黒澤明監督が『白痴』を日

本に置き換えて映画を作りましたよね。

しかし「何を」は変えてはいけません。「いつ」「どこで」は変えられます。でも「何を」は変えてはいけません。事件の中の関係を変えることはできるかと思いますが、重要な事件を重要ではない事件にすることもできます。『三人姉妹』の3幕の火事のシーンを、ある演出家は背景にするかもしれませんが、火事に対して大きな事件とするのではなく軍隊が別の街に行くことになるというのが大きな事件とする人もいるでしょう。演出家のプランによって登場人物のテンポ・リズムが変わってきます。できるだけ客観的にチャーホフが書いたことを分析していきたいと思います。

**参加者** 注意を意識するトレーニングとして周囲の物音を聞く、視覚に対しては覚えたものを目を閉じている間に変化してもらい当てる。

**ピサレフ** トレーニング方法は沢山あります。他にも「声当て」というのがあります。声だけで誰か当てるのです。わざと声を変えても誰の声か分からなければなりません。

街を歩いているとき、電車の中で人々を観察してください。どんな服とかだけでなく、どこへ行こうとしているのか？ 何をしている人なのかなどです。機械的な注意ではありません。

休憩の前に昨日の課題について覚えていますか？ 登場人物の経歴書を作りましたか？ ストーリーを通して演じてみましょう。皆さんが選んだ登場人物が学術会議に参加したらという設定で発表してください。発表後、皆さんは質問することができます。戯曲あらすじに基づいた質問をしてください。戯曲が始まる前の会議に参加しているという条件で発表してください。「イリーナの名の日の祝いの前に行われた学術会議」という題名をお願いします。

◇ ◇ 休憩 ◇ ◇

**ピサレフ** 続けましょう。もちろん登場人物が違ふと感じたら戯曲に基づいて修正してあげてください。自分で勝手に想像しないでください。例えば、マーシャがモスクワからここへきて10年住んでいますと言ったら。違いますよ戯曲に11年と書いてあります、というように修正してください。論議の余地のない事実もあれば、主観的な内容のものもあります。登場人物が何を話しているかだけが重要ではありません。重要なのは何をしているかです。では始めましょう。

**参加者** ヴェルシーニンです。私は陸軍中佐で砲兵隊長をしています。モスクワから今回この町に赴任してきました。プロゾロフ家の隊長には可愛がってもらいました。妻と2人の娘がいます。妻は大変な女性です。以上です。

**ピサレフ** 何歳ですか？

**参加者** 43歳です。

**ピサレフ** モスクワから来ましたか？ 部隊の隊長ですか？ 部隊は何人いますか？ など知らなければいけません。いつ部隊長に任命されましたか？ 今

はすべての問題に答えることが重要ではなく、質問をすることが重要です。皆さん、どんな質問がしたいですか？

**参加者** 娘の年齢は？

**参加者** 5歳と7歳です。

**参加者** モスクワからここに赴任してくることにどんな思いですか？

**参加者** 悔しいです。

**ピサレフ** なぜ、悔しいのですか？

**参加者** モスクワの方が出世街道だからです。



**ピサレフ** ヴェルシーニンが1幕で話していることを思い出してください。自然が豊かな町で気に入っていると話しています。ロシアで軍人のキャリアはこのように構成されています。どこか地方の町で勤務してキャリアを積むのです。モスクワにずっといてキャリアを積むことはできません。

この時代は戦争のない時代です。しかし軍人は存在し続け、町に駐留しています。

質問です、ヴェルシーニンは戦争に携わったことがあるのでしょうか？ 戦場で戦ったことがあるのでしょうか？ この中で戦闘行為に参加したことがあるのは年齢的にチェブトイキンと、ヴェルシーニンだけです。恋愛事件はよくありましたか？ モスクワですか？ 三人姉妹の母親とは何か関係を持たれたことはありますか？ 会ったことはありますか？ 人生で何が好きですか？

**参加者** 哲学と女性です。

**ピサレフ** どんな哲学ですか？ 質問です。答えようとしなくてはいけません。どんな哲学に興味を持っていますか？ 考えてくださいね。ただ単に哲学というのは大雑把です。

今度は女性にお願いしましょう。オリガ役をお願いします。

**参加者** 私は教師をしています。11年前にモスクワから引っ越しました。2人の妹がいます。1年前に父が亡くなりました。

**ピサレフ** 母親はいつ亡くなりましたか？ 母親の死についての情報は？ モスクワで亡くなっています。11年前にここに来たので、それ以前になりません。母親を通して、父親のことも何か気づきがあるでしょう。母親は幼い頃に亡くなっているので、オリガは母親代わりにもなっているでしょう。

**参加者** 妹たちのことがいつも心配です。仲は良いのですが、時々意地悪なことを言ってしまいます。父のことは誇りです。彼がいなくなって働かなくてはいけなくなりました。生活は中流です。

**ピサレフ** 家では誰と一緒に住んでいますか？マーシャは？

**参加者** イリーナとです。マーシャは結婚しているので一緒に住んでいません。弟のアンドレイと、チェブトイキンと住んでいます。

**ピサレフ** この家は大きな家ですか？ いくつ部屋がありますか？ どんな家か話さなければなりません。平面図を書いてみてください。他にオリガにどんな質問をしたいですか？

**参加者** アンドレイについてどう思っていますか？

**参加者** アンドレイに対してですが、頭がいい、学者タイプ。自慢の兄弟。アンドレイが好きです。

**ピサレフ** オリガとアンドレイとどちらが保護していますか？ 姉妹はアンドレイが好きですか？ アンドレイは姉妹が好きですか？

**参加者** オリガが保護しています。

**ピサレフ** オリガはお母さんのような存在です。アンドレイのことを姉妹は大好きで、彼に期待をしている。しかし幼い子供を褒めるような感じです。大好きなおもちゃのような存在です。私たちのアンドレイなのです。アンドレイと姉妹の関係、ナターシャとの関係は難しいものです。たとえナターシャが素晴らしく良い女性であっても、複雑な関係でしょう。容易ではないはずですが。オリガは何歳ですか？

**参加者** 28歳です。

**ピサレフ** 母親が亡くなったのは11年以上前ですから、オリガは大きくても17歳だった。もしくはもっと幼かった。結婚願望はないのですか？

**参加者** 姉妹がバラバラになるのが不安。自分の結婚より、今はアンドレイ、イリーナのことです。

**ピサレフ** オリガ自体が何を望んでいるのか考えることが必要です。他に質問は？

**参加者** 結婚したくないというのは納得できません。アンフィーサのようになってもいいのですか？

**参加者** アンフィーサのようにはなりたくないです。

**参加者** 今まで誰かを好きになったことはありますか？

**参加者** 今は好きな人はいません。好きになっても自分からはいけません。

**ピサレフ** 少しお仕事をしたそうですが、どのような仕事をしましたか？

**参加者** 小学校の先生です。子供達は言うことを聞かないし、仕事も多くて疲れます。

**ピサレフ** 次に移りましょう。しかし、オリガについては探求を続けてください。ではアンドレイにいきましょう。

**参加者** はじめまして、アンドレイです。23歳です。姉と妹が2人います。父は去年亡くなりました。母が亡くなったのはまだ小さかった頃です。私はプロゾロフ家で唯一の男性です。本を読むのが好きです。最近は英語の本を翻訳しようとしています。今日も寝不足です。英語、フランス語、ドイツ語を勉強しました。父が厳しかったからです。父は軍人でしたが、私には将来学者になることを望んでいました。私はモスクワの大学で教授になりたいです。趣味も沢山あります。芸術が好きで、楽器を演奏します。最近、イリーナのお祝いに自分で額縁を作りプレゼントしました。

**ピサレフ** 大変理想的ですね。なにか問題はありますか？

**参加者** 父が亡くなって太りました。ストレスですかね？

**ピサレフ** 学問、ヴァイオリンの演奏以外に夢中になるものはありますか？ 女性に興味はありますか？

**参加者** 好きな女性がいます。ナターシャです、綺麗です。女の兄弟が多いので、女性はこういうものだと思っていたのですが、彼女は可愛くて守ってあげたくなります。

**ピサレフ** 姉妹は自立しているのですか？

**参加者** 私のことを頼ってくれません。



**ピサレフ** あなたに守って欲しいと思っていないのですよね？ ナターシャは女らしくて優しいのですよね？ ナターシャもあなたの事が好きですか？ 誠実にあなたのことを愛していますか？

**参加者** はい。

**ピサレフ** 姉妹の方が冷たいですか？ 3人の女王のようですか？

**参加者** 冷たくはないのですが、私を男としてみていません。

**ピサレフ** ナターシャはあなたを頼りにしているのですね。他に追加することがあればお願いします。今の考えに賛同できますか？

**参加者** ナターシャの服のセンスが良くないので、周りの人々からかわれるので守りたくなります。

**ピサレフ** アンドレイに質問しましょう。

**参加者** 大学教授になるのが夢だと言いましたが本心ですか？

**参加者** なりたいです。

**参加者** 何の専門家になりたいですか？

**参加者** …。

**ピサレフ** どんなことが好きですか？ 騒がしいお祭りが好きですか？ それとも静かな方が好きですか？

**参加者** 人が沢山いるところは好きではありません。

**ピサレフ** 姉妹はあなたとナターシャのロマンスを知っていますか？ また、なんと言われているですか？ どう思いますか？

**参加者** 知っていますが、良く思っていないです。

**ピサレフ** アンドレイがナターシャと結婚するとは思っていないと思います。一時の恋だと思っている。アンドレイにはセンスがあるからもっと素敵な女性を選ぶはずだと。他に質問は？

**参加者** 姉妹が多いので、家から出たいと思ったことはありますか？ 息苦しくないですか？

**参加者** 私は長男です。そして姉妹を愛しています。出たいと思ったことはありません。モスクワに行くなら一緒に行きたいです。

**参加者** 太ったそうですがストレスを発散させるためには何をしますか？

**参加者** 楽器を演奏して気を紛らわせます。

**参加者** 今日の「イリーナの名の日」のお祝いにナターシャを呼んだのはなぜですか？

**参加者** プロポーズをするためです。家に来るのははじめてではないです。

**ピサレフ** 公式に招待を受けて招かれるのは、今日がはじめてではないでしょうか？ 自分が恋している女性を公式に家に招待し、プロポーズをするというのがこの導入の事件に対するアンドレイの考えではないでしょうか。

ではナターシャにいきましょう。

**参加者** 私はこの町で暮らしています。11年前にプロゾロフ家の人がこの町にやってきて知り合いになります。アンドレイの婚約者です。彼の父が亡くなってから太ってしまったのが心配です。私のしていることが彼の姉妹に気に入られてないのを知っています。

**ピサレフ** あなたはまだ公式に彼女たちと会ったわけではないのに、なぜそう思うのですか？

**参加者** あからさまに嫌われているわけではありませんが、何か引っかかります。

**ピサレフ** これは疑問点です。私が思うに、姉妹たちが自分のことを良く思っていないことを考えていないと思います。彼女は良く見られたいと思っているのです。彼女にとっては別の世界に引きつけられるのではないのでしょうか？ 年齢的に近いのはイリーナではないのでしょうか？ 自分とは違うタイプです。ナターシャの両親はどんな人でしょうか？ どんな仕事をしているのでしょうか？ 戯曲には書かれていません。プロトポーポフとロマンスがあると噂があるのですが、過去にあったことなのか、現在もなののでしょうか？

**参加者** 以前、関係がありました。

**ピサレフ** あなたは鏡の前で過ごす時間は長いですか？ 自分が美しいと知っていますか？

**参加者** 出かけるときは長いです。この服を着ると良いとは分かっています。

**参加者** アンドレイと出会って何年ですか？ 彼とキスをしたことがありますか？

**参加者** 何年か…。キスをしたことはありません。

**参加者** 何をしているときに好きですか？

**参加者** 服を選んでいくときに好きです。

**ピサレフ** 派手な色が好きですか？ ファッションの他に何が好きですか？

ダンスをすることは好きですか？

**参加者** 派手な服が好きです。ダンスは嫌いです。

**ピサレフ** 私が思うに、彼女はすごくダンスが好きで行きたくて仕方ないと思います。社交の場が好きだと思います。男爵に必ず最初に挨拶をする、誰がいるのか、社会的地位を見るはずで。父親が生きていた頃は、ナターシャのような女性は近寄ることができなかったはずで。以前は見かけることはあったにしても付き合うことはできなかったと思います。この家は名高い家なのです。父親が生きていた頃は何十人もの人が集まる場所で、近寄ることすらできなかったでしょう。

しかし、ナターシャは男性に好かれるタイプです。彼女が来ると男性がみんな注目する。オリガが来たら興味深い女性で話をしようとするでしょう。でもナターシャは話すことよりも別のことをしたいと思うでしょう。

軍人たちは、社交界での生活と、私的な生活（短い恋、性的な関係）があります。ナターシャは自分の人生設計があり、高いランクのものを狙っています。1幕目のナターシャは守られる女性、弱い女性として存在します。この世界では異分子なのです。仲間たちは最初の時点から彼女に対して残酷に接しています。「センスの悪い服を着ているの？」アンドレイの目の前で彼女をおとしめている。公衆の面前でやっているのです。彼女は気に入られたいと思っています、大変な立場にいます。好意に満ちてやってきます、冗談を言ったりしますが、三人姉妹だけでなく、チェブトイキンも歌を歌っておとしめます。彼女は涙を流し、その席を立って逃げ出そうとします。もちろん彼女はやがて復讐します、この家を破壊します。彼女がこの家を破壊していく様は、この



第1幕がなければ生きてきません。まず自分を守り、増殖していきます。子孫を生んで、今までそこに住んでいた人を追い出していきます。アンドレイは彼女を守る能力がなかった。彼女には出世したプロトポーポフとのロマンスが発展していきます。アンドレイは彼女とプロトポーポフの間に生まれた子供の子守をするだけです。

彼女には豊かなファンタジーがあります。彼女は闘志ではありません。自らが犠牲者として、涙を流して、女性という武器を使って多くのものを勝ち得ています。ナターシャは一筋縄ではいかない人物です。この役を演じる女性は、正当化して演じなければなりません。自分を守るために必要はことと正当化して、誠実に守り、達成していくのです。

ここで休憩を入れましょう。

◇ ◇ 休憩 ◇ ◇

**ピサレフ** 次はチェブトイキンについて話しましょう。

**参加者** 私は今、軍医という立場にあります。いろんなことを忘れたいと思っていて、実際忘れていきます。新聞と、時計が好きです。忘れていくことが多いので、書き留めることをしています。しかしそれが重要なことかというところどうも分かりません。プロゾロフ家の1階に住んでいます。姉妹のお母さんに心を寄せていました。お母さんに似ていると思うのがイリーナでプレゼントを用意しました。平穏な生活が好きです。変化を好んでいません。時計のリズムは一定なので、時計が好きです。物事に積極的に近づくというよりは、距離を好みスタンスを取っています。おそらく、昔、戦争のときに軍医だったにも関わらず、多くの人を助けることができなかった過去があり、希望が叶わなかったときがあるので距離を保ちたいのです。姉妹の母親が亡くなったのも深い悲しみがあります。大切な人の子供が成長していく様を見守っていきたいのだと思います。あと、お酒も好きです。しかし飲みすぎると、隠している部分が出てしまいます。理性を失くすというよりは、出してしまう自分を抑えるため飲むのを控えています。

**ピサレフ** よろしい。どのくらい飲んでいませんか？

**参加者** 11年以上は飲んでいないと思います。

**ピサレフ** 本当ですか？

**参加者** 飲んでますね。

**ピサレフ** 私が思うにチェブトイキンが定期的に飲む飲まないではなく、飲み始めると深酒をします。好きというのではなく、飲み続けてしまうのです。周りの人は彼が飲むのを恐れています。1幕目で2年も飲んでいないと言いますが、半年ほどして秋に2週間飲み続けています。危険な状態です。

チェブトイキンは複雑な人物です、彼のセリフは謎が多いです、不可解です。彼が何を言いたいのかロシア人でも難しいです。

彼のセリフで「タララブンブヤー」という言葉があります。これは言葉の響きであって訳せないものなのですが、常に「無意味だ、どうだっていい」という言葉を発しています。深淵の絶望感が彼をそのようにしてしまったのではないのでしょうか？

常に新聞を読んでいます。実際には他の周りに起きていることを1番見ているのではないのでしょうか？ 彼が何を話すのかが重要ではなく、いつ話すかが重要です。

質問がありますか？

**参加者** はい、チェブトイキン家賃を滞納しているそうですか、どうなのでしょう？

**参加者** 滞納して良いわけではないのですが、この家との付き合いは長く甘えているのではと思います。主に姉妹のお母さんに贈り物をしているので、それが家賃の代わりにできるのではと思っている。家賃を払わなくても大丈夫な関係です。

**参加者** じゃあ、なぜ間借りしているのですか？

**参加者** 父親の部隊の軍医で、彼と一緒に行動している。そのため、一緒に働くためにいい環境として彼はここに住んでいる。

**ピサレフ** どのくらいの期間住んでいますか？ 父親が亡くなる前からですか？ それとも亡くなった後でしょうか？ 私は父親が亡くなった後だと思っています。

あなたは非常にオープンに姉妹の母親が好きだった、噂でイリーナの父親があなたではないかという噂がありますが、どうなのでしょう？ これはロシアでも解明できません。チャーホフ研究者、演出家の中でもチェブトイキンがイリーナの父親であり、彼女との親しい関係、母親との関係も考えられるという解釈があります。

イリーナがトゥーゼンバフと結婚しこの家を出ることになったとき、彼女と別れたくないという気持ちが強く、傷ついています。自分を傷ついた鳥とも比較しています。いずれにしても謎の多い人物です。

分析が良くできていると思います。第1幕で話すのであれば、チェブトイキンのような人でも積極的な人間として登場しています。父親が1年前に亡くなった、天気も悪かった、参列者も少なかった。でも1年が過ぎてあのとときの苦痛が過ぎ去っている。今日は父親の1周忌ではなく、今日は「名の日」の祝いの日であるということ。太陽が輝いて「名の日」のお祝いであるという気分を伝えています。あらすじを語っているのではなく、姉妹が死のことで集まったのではなく、「名の日」のお祝いで集まったこと、モスクワへ行くという目的を確認するためのものです。

イリーナが神様の助けで全て上手くいくということ。全体の気分はポジティブで悲しいことは過去に葬ったということ。この戯曲は四季があります。1幕は春です。春は蘇生の時期です。



2幕は冬です。3幕は夏、4幕は秋です。今回は1幕をします。春の息吹が吹き出そうとする雰囲気セリフを通して表さなければなりません。

しかし、姉妹の中で性格の1番複雑なマーシャが問題になってきます。父親の死を思いし今は半分しかいないと話します。

では、マーシャについて話しましょう。

**参加者** 私はマーシャです。姉妹がいます、姉のオリガと、妹のイリーナがいます。歳は21歳です。イリーナは20歳です。結婚は18歳のときにしました。夫は学校の先生です。子供の頃からピアノを弾いていましたが、18歳の時に結婚し、頭のいい夫に釣り合うようにたくさん本を読みました。それ以来ピアノは弾いていません。それに夫は私より頭が悪いと分かりました。父が亡くなった後、自分の「名の日」のお祝いがあったのですが、イリーナの「名の日」のお祝いのようではありませんでした。妹なのでお祝いしたいのですが、心のどこかで自分のお祝いの日と比較してしまうので素直にお祝いできません。結婚は失敗だったと思いますが、別れるという低能なことはしたくないので離婚はしません。

**ピサレフ** 質問はありますか？

**参加者** 子供が欲しいとは思いませんか？

**参加者** 思いません。

**参加者** クルイギンとの子供が欲しくないのですか？ 関係が終わっているのですか？ 毎日このような関係で生活しているのですか？

**参加者** 結婚は失敗か失敗ではなかったかと聞かれると、それを見ないようにしています。我慢しています。自分が幸せなんだと思いたいので努力しています。

**参加者** 今後、結婚生活は続けても魅力的な人がいたら惹かれると思いますか？ 何かしたいと思っていますか？

**参加者** はい。幸せになりたいと思います。自分の理想の生活がしたいです。

**ピサレフ** 皆さんの質問も、答えも良いと思いますが、まずマーシャの年齢を考えましょう。おそらく21歳ではないと思います。もう少し年上ではないでしょうか？ 自分の不幸を自覚したくないはずです。この当時、離婚は容易にできることではありませんでした。離婚ということになるとどうでしょうか？ クルイギンは離婚したいと思っていませんし、今のところ離婚になる理由はありません。彼は順調な結婚生活だと思います。常に「マーシャは私を愛しています」と言っています。背景には何か恐れがあるからではないでしょうか？

チャーホフは手紙の中に書いています。実際演じている俳優に注意事項を書いています。マーシャは全く苦しんではいけません。心の中に秘められたドラマを担っている登場人物は口に出すときは少し冗談めかして話すはずで、口笛を吹きながら、ふざけながら話すはずで、時々、不意にバカバカしい振る舞いや言い方をします。チャーホフは苦しんだり悩んだりしないことです。

オリガはいつも「頭がいたい、頭がいたい」と言いますが、もし行動するのであればより良い未来に基づいて行動するでしょう。苦しみから逃げています。1幕の最初の父の死を忘れようとしています。ところが過去の悲しい出来事に後退していきます。

女優はマーシャを演じたがります。イリーナは恋を待ち受けています。マーシャは戯曲のはじめで不幸ですが、愛を見つけます。オリガには恋愛すらありません。オリガは同情もすれば羨望もします。複雑な人物です。例えば結婚しているとします。しかし結婚は失敗だったということを親しい人に見せることはしないと思います。逆にそう見られないように振る舞います。ですからマーシャにとって必要なのは自分が不幸だと見せないことです。イリーナのお祝いをせずに帰ろうとするのは報われない結婚生活の一面が見えるからです。

まだ登場人物の半分ほどが残っていますが、明日この続きをしましょう。明日はもっと積極的に話をしてください、分析をしてください。そしてエチュードについて考えてきてください。エチュードの内容は、今日、発表してくれた方は自分の人物像について考えてきてください。与えられた状況は戯曲が始まる前です。イリーナの「名の日」のお祝いの前です、その日の朝でも前夜でも構いません。場所は家でも部隊でも構いません、1人で演じるエチュードを考えてください。何をするか、何によって生きているか、何が大切か？ もしかしたら舞台上では現れないかもしれませんが内に秘められた秘密があるかもしれません。昨日話したように早いのかゆっくりなのか？ 静かなのか、騒がしいのか？ エチュードの登場人物は今日の発表の人物と違って構いません。

もう1つエチュードの課題があります。これは明日までではありません。明日は1人で演じるエチュードで、明後日はグループのエチュードをしてください。何かの時間を統一するような事件を基にしてください。例えば「新しい部隊長がこの町に到着する」「部隊は新しい体調をどんな気持ちで待つだろうか？」「チェブトイキン、トゥーゼンバフ、ソリョーニイは新しい体調をどう受け入れるのか？」それから皆さん、ロードとフェドーチクについて忘れていきますよ。男性のエチュードになるでしょう。ヴェルシーニンが初めて皆さんと会うのはどんな感じでしょうか？

もしくは1年前のイリーナの「名の日」のお祝い、もしくは父の死でも良いと思います。何が起きたのか？ マーシャ、イリーナ、オリガ、アンフィーサなどのエチュードもできるでしょう。ここに父親役はなくてもいいでしょう。今例を挙げましたが、ほかに思いつけば見せてください。父親が生きているときのこの家のお祝い事はどんな様子だったのかでも良いです。戯曲のはじまる前のエチュードをお願いします。

**参加者** エチュードの中で事件が起こる方がいいですか？

**ピサレフ** その方が良いです。小さな事件でも良いので事件が必要です。1人のエチュードでも、何か事件が起こり、ストーリーができます。事件があるから俳優は行動します。

**参加者** エチュードの前に一緒にエチュードをする俳優と話をしすり合わせた方がいいですか？

**ピサレフ** 必ずしも必要ではありません。あくまでも戯曲に書かれている事実も基にエチュードをします。では今日はこれで終わります。



## ●ワークショップ4日目

**ピサレフ** 今日は1人のエチュードからはじめます。ではお願いします。

「参加者順番にエチュードを見せる」

### ・1番目 トゥーゼンバフ

頭まで毛布をかぶったところからスタート。腕時計を手探りし、起きて、眼鏡をかける。歯を磨く。ひげをそる。ちょっと引っかかったりする。窓を開ける。スーツを着る。ネクタイを普通のものか、蝶ネクタイか迷い、蝶ネクタイにする。ピアノを引きながら、バースデーソングを練習退場。

### ・2番目 マーシャ

鼻歌を歌いながら化粧。口紅。ピアス。靴をはき、セーターを着る。花の匂いを嗅ぐ。厚い本で、なにかを読む。文庫本をとって、テーブルにかけて、「入り江のほとり…」の詩を読む。「ダメだ」という体で、文庫を置く。セーターを脱いで、鏡チェック。スカートをはきかえる。靴を脱いで、はきかえる。口紅をとる。スカーフを巻く。退場。

### ・3番目 ソリョーヌイ

登場。椅子にかける。息が少し荒い。パントマイムで水をついで飲む。「右手だと25キロ、左手だと25キロ、でも両手だと100キロ持てる。」プロポーズの練習。口臭消し。落ち着けようとする。「あなやという間もなく、熊は襲いかかりたり。」

### ・4番目 マーシャ

登場。エプロンはずす。ため息。靴箱をとってくる。手紙／カードを手にとって、見て、置く。ドレスを見て、置く。吊るしてあったドレスを着る。鼻歌。鏡。髪を束ねる。口紅。靴箱あける。中に手紙？ 靴を手にとって見つめる。テーブルの上のものを全部ぶっとばす。髪をほどく。手を洗うみたいな感じでさする。口紅を手でぬぐう。また髪を束ねる。ため息。退場。

### ・5番目 トゥーゼンバフ

ジャケットを壁からとってほこりを払って着る。鏡で髪型を直す。テーブルにすわって、指輪を磨く。指輪を見つめる。「イリーナ、君にプレゼント…ありがとう、男爵…似合ってるよ」一人芝居。指輪をはめたら抜けなくなる。水道で手を濡らして試してみるが取れない。髪用のオイルで試す。「今いく、ソリョーヌイ君、待って！」指輪をつけたまま手袋をはめて退場。

・6 番目 アンドレイ

机で書き物。本を読みながらメモ。指輪を見る。ため息。毛布かぶって寝る。起きる。また指輪チェック。何度もチェック。思い入れ。何かを想像して笑う。指輪をおとし、ローソクの灯りで見つける。祈る。指輪を小箱にもどす。ローソクを吹き消す。ベッドまできて腰掛けるが、思い直してカーテンをあけ空を見る。顔の汗をぬぐう。退場。

**ピサレフ** 1つ目のエチュードについて何かありますか？

**参加者** 時間がないという感じがしましたが、物足りなかったです。何か事件を用意して慌てます。

**ピサレフ** 障害を多く作れば作るほど、より生きた物になります。急いでいれば普通、なにかトラブルがある。小さな事件のつながり合いが足りなかったと思います。

では2つ目のエチュードについて何かありますか？ 何か不足していたこと、わからなかったことはありますか？

**参加者** 黒い服に着替える変化が詩だったのか分かりませんでした。

**ピサレフ** なぜ詩を読んだのですか？

**参加者** クルイギンがプセゼントに用意していた本だった。彼が書いた本で、くだらない本だった。父の1周忌でもありますが、せっかく「名の日」のお祝いでもあるので気分を切り替えて好きな本を読んだらその詩が今の自分の事を書いている詩だった。

**ピサレフ** 興味深い考えで、やり方ですね。しかし分析の仕方については賛成できません。何か足りませんでした。内的な感情と多くの事が結びつき過ぎていましたが、何かが起きていた事は感じられました。

3番目のエチュードはどうでしょうか？ 見たところ、ソリョーヌイは家で話す練習をしているようでしたね。あり得ないわけではありませんが、彼の奇妙なスピーチは前もって準備した物ではないと思います。思うに即興的なものだと思います。

**参加者** 私もそう思いました。でも言ってみて気づくのですがそれは事件として弱いのでアイデアが浮かびませんでした。

**ピサレフ** 家で面白くないフレーズだと気づいたら、他の人には話さないと思います。ソリョーヌイは複雑な登場人物です。彼は家でたくさん独り言を言うとは思いません。もし家で独り言を言う人であれば変人ですよ。

4番目のエチュードはいかがでしたか？ 何か意見は？ どんな印象でしたか？

**参加者** 面白かったです。服や靴はクルイギンが用意したもので、それが嫌で次の行動に出るといような気がしました。

**ピサレフ** みなさん同じですか？ 他に意見は？

**参加者** 最初にバーンとされてしまうと、引いてしまいます。最初は抑圧してその抑圧が爆発した方が効果的なのは？

**ピサレフ** 説明してください。

**参加者** あらすじは話して頂きました。用意してもらったものと真逆な服を着たいと思い、自分で買ったお気に入りの靴を履こうとしますが、ヒールが高すぎて夫が切ってしまった…

**ピサレフ** 私は気に入りました。靴に対しては何か特別な事があると感じました。投げる前は父親からのプレゼントかと思いましたが、投げた瞬間に違うと思いました。なぜ父親の事を言うのかというと、マーシャは父親が最も愛した娘だったと思います。マーシャが他の誰よりも多く父親を思い出しています。クルイギンとの結婚でさえ父親が生きていたときは失敗だと思っていなかったでしょう。娘はある意味父親と結婚するんです。彼女は頻りに父親を思い出して話しています。もしかしたらイリーナは私たち父親の子供ではないと感じているかもしれません。チェブトイキンにも「母のことを愛していたの？」と聞いています。何かを感じているからに違いありません。第1幕でクルイギンとうまくいっていない生活よりも、父を失った喪失感で生きています。

約束です、今日は「イリーナの名の日」のお祝いで明るく、楽しく過ごしましょうとしているのにマーシャだけが黒い服を着ているのです。新しいお客にも興味がありません。

次のエチュードはトゥーゼンバフですね。何か意見は？

**参加者** もしもう1度荷物を取りに戻ったら面白かったです。

**ピサレフ** アイディアはとても良かったです。事件の構成が予期できないもので行動を変化させ、性格も現れていて良かったです。しかし見せるためのエチュードになっていました。エチュードを生きているではありませんでした。例えば急いでいるとします。イライラして慌てる筈ですが、イライラしますよ、慌ててますよと見せつけていました。

昨日のアンドレイのエチュードを思い出してください。太って服が着られませんでした。信じがたい、真実性のない偽りで始まりました。本当だと信じることができませんでしたよね。けれどもシャツのボタンがかからないというのが彼自身に問題が起き、本物のお腹か、偽物か重要ではなくなりました。演劇の奇跡です。与えられた状況を信じることです。それは才能を深く関わっています。俳優は与えられた状況を信じるができる人ほど良い俳優です。見ている人を信じさせることができるのです。どのジャンルであろうが同じです。信じるのが大切です。スタニスラフスキーの有名な言葉があります「信

じない」です。演出家だけでなく、観客全てが「信じる」状況にならなければいけません。

自分自身を信じ切ってエチュードをして下さい。詳細さが不足していました。与えられた状況を信じるためにはより性格に詳細に見えていなければなりません。舞台では目指す賭けが高くなければなりません。歩合とはなんでしょうか？

**参加者** 俳優にとってですか？ 今話を聞いていてですが、物事が詳細だからこそ観客が信じることができる。

**ピサレフ** 俳優が目指す賭けです。愛を告白するとします。告白するとき多くのものを犠牲にするのであれが賭けですよね。どれだけ高く賭けをすることができるかが必要です。ナターシャがこの家に訪れます。彼女は賭けをします。全ての人に好かれて、いい生活ができるかどうかに挑みます。彼女は恐れているのは受け入れてもらえないことです。外面では見せませんが、内面では恐れているのです。これが「賭け」です。「賭け」たものには逆の面もあります。受け入れられなかった場合もあります。「賭け」が高ければ高いほど良いということ。良い戯曲であれば「賭け」が高いものであることを要求します。

**参加者** 指輪が取れなかったとしたら、指輪が取れなかったことに対する「賭け」では弱かったのでしょうか？ 取れなかったらイリーナにプレゼントできないという問題、不安の「賭け」があればもっと良かったのでしょうか？

**ピサレフ** そうですね。自分自身が取れないことによって問題が生じれば良かったのです。指輪が取れなくて困っています、皆さんどうしたら良いですか？ というのは見せるためです。しかしそうではありません。

次のエチュードについて。6番目はアンドレイです。

**参加者** 暗くて落とした指輪が見えない、見つけたで終わってしまったように思います。

**ピサレフ** 与えられた状況が自分のものにできていませんでした。例えば暗くて見えないとします、指輪が転がって初めてわかりました。それまでも暗闇の中にいましたか？ 立ち上がって暗い部屋の中を歩くときに蝋燭がなくても歩けますか？ 与えられた状況を信じることができませんでした。与えられた状況をエチュードを始める前に明確にしなければなりません。小さな嘘が信じることを妨げます。エチュードのあらすじは良かったと思いますので、状況を信じることを忘れないでください。

ではここで休憩をしましょう。

◇ ◇ 休憩 ◇ ◇

**ピサレフ** では続けましょう。

・7 番目 ナターシャ

テーブルに座っている。髪型をいじり、口紅をつける。鏡でスタイルをチェックする。袋から黒いヘアバンドを出して頭にあて髪をいじる。髪をほどいて櫛でとく。また髪をむすんで、ヘアバンドを黒に替える。満足そう。ストールを肩にかけ、鏡にうつす。時計を見てバッグを持って退場。

・8 番目 イリーナ

寝ている。起きてカーテンあけ、窓あけて満足そう。毛布を窓のそとではたく。椅子にかけ、髪を櫛でといて結ぶ。手、顔を洗う。ドレスを合わせる。服をいろいろ検討する。「アンフィーサ、アンフィーサ！」と呼びながら退場。

・9 番目 ヴェルシーニン

立っている。床に花。花を確認し、悲しげに顔をなでドアのところに行き、ドア外の様子をうかがう。戻ってきて、ちょっと嬉しそうな顔。花を持ってあらためてドアへ。「ただいま！」

・10 番目 マーシャ

テーブルの上に椅子（サモワールのつもり）。紅茶セット。本。頭に手をやりながら登場。椅子をもってテーブルの近くへ。カーテンをあけて外を見る。紅茶をいれながら本を読む。憂鬱そうに椅子にかける。顔を手でおおう。聞こえないぐらいの声で独り言。「マーシャ・プローズロフ……」ポットをいじって熱かったので手を水道で冷やす。指輪をはずそうとする。歯で噛む。いらいらと歩き回る。本のページをやぶって捨てる。椅子にかけて頭をかきむしる。紅茶をカップにいれて、口の近くまでもっていくが飲まずにテーブルに戻す。水道で石けんを手につけ、もう1度指輪にトライ。はずれる。指輪をはめていない手をみる。コンパクトで顔をチェック。退場。

・11 番目 チェプトイキン

ドア近くから新聞を読みながら登場。手には花。椅子を見つめる。上着を脱いで新聞とともに床に置く。花をもって椅子にむかう。座面をいとおしむかのように手でなでる。ポケットから腕時計を出し端っこに置く。文庫本を出し同じところに置く。腕時計の音を聞く。文庫本を開いて、読みながら「タラブンビヤ」、花も供える。上着を着てボタンをはめ、新聞を取って読みながら退場。

・12 番目 アンドレイ

テーブルで文庫本を読む。何かメモを取る。辞書を読む。またノートをとる。水を飲む。ため息。スナックを食べる。丸い容器を手にも、考え込む。容器のフタを開けるが中身がないのか探し始める。何度もフタをあけて確かめる。ドアの方にむかうが、ふと上着のポケットに手をいれると、探し物はあり、ホッとす。

・13 番目 アンフィーサ

編み物をしている。手袋が完成。窓の外を見る。椅子にもどって、何か忘れたことを思い出す。巾着袋の口をしめて何か考える。くしゃみ。口をおさえた手を見て何かに気づき、ホッと袋の口を閉め直す。



**ピサレフ** 7番目のエチュードから話していきましょう。

**参加者** 僕には焦っている人を演じているように見えた。ストールをかけて去るときは真実味があつたかと思います。

**参加者** 今言われたように、考えたことをやってしまいました。

**ピサレフ** 面白い思いつきとは言えませんが、プロセスは感じられました。

内的なリズムは感じましたがやりたいようにできなかったと思います。

8番目にいきましょう。何か意見を言ってください。

**参加者** 全体的に可愛くて好きです。

**ピサレフ** もともとかわいいですね。彼女のように若くて可愛いと何をしても可愛くて終わってしまいます。大切なのは願望です。若くて、輝いている女性にとってでも緊急な、重要な願望があるはずです。誕生日の前に何か思うはずです。誕生日は特別な日で、自分に何か特別なことを言ってもらわないと気が済まない人もいます。何日か前から誕生日会来てね、プレゼントはこればいいなど。私の知り合いの女性は誕生日の前に緊張して興奮しています。イリーナにとって誕生日は特別な日で、何か良いことが起こる日という希望がなければなりません。誕生日と命日が同じというのは毎回思い出してしまう可能性があるのが暗くなりがちです。今のエチュードから明日は誕生日だけど…先ほど話したように「賭け」が弱かったのです。1幕のイリーナの「賭け」はものすごく高いものではなければなりません。

9番目にいきましょう。ヴェルシーニンですね。

**参加者** 赴任してきて職場から家に帰ってきた。

**ピサレフ** どうして家に帰るのが大変なのですか？

**参加者** この時点で妻が、過去にも自殺騒ぎをしているので家に帰るのが憂鬱です。

**ピサレフ** 2つの事件を結びつけたわけですか？ 新しい部隊に来たこと、妻の問題とをです。私が分からなかっただけかもしれませんが、最初酔っ払っているように思いましたが？

**参加者** 違います。

**参加者** 最初彼は憤っていて、花を見ていたのでプロゾロフ家に来たのだと思いました。でも違っていました。

**ピサレフ** 私も最後の家に帰るところしか分かりませんでした

10番目のエチュードはマーシャですね。いつどのような状況ですか？

**参加者** 1周忌の朝です。気分を変えようと試みます。とても良い天気の中で楽しく1日をはじめようと、お茶を読もうとすると本があります。その本はクルイギンの書いた50周年記念の本で、私の卒業したページに記しがついていて、朝から憂鬱になり、お茶が溢れて軽いやけどをし、冷やします。冷やしていたら結婚指輪が目につき衝動的にそれを外したいと思うのですが、4年間の中で指輪が外れず、体の一部になってしまったように感じ、その八当たりを彼の本に向ける。でも指輪は取れません、お茶を飲もうとしたらアイデアが浮かび、石鹸で洗ったら取れて嬉しくなりました。でも太ったし、しわは増えて…と思うのですが指輪が取れたことの方が嬉しくてイリーナのところへ行こうとします。



**ピサレフ** 良いエチュードだったと思いますが、三人姉妹は教養の高い、貴族の娘です。貴族は自分の感情任せに振舞うことはありません。庶民とは違います。庶民は自分の感情を慎むことはありません。貴族は自分の感情を内側に抑制しています。自分に対しても皮肉で聡明です。貴族の特徴は絶対に周りの人に都合の悪いことはしないということです。

ナターシャの行動は三人姉妹にとって苛立ちの元になります。彼女は自分の子供を可愛い可愛いとあやします。これは姉妹にとってのものすごく苛立つ行動なのです。皆さんはテレビを見ておかしければ笑いますよね？ しかし姉妹は笑わないのです。なぜこのような話をするのかというと、姉妹たちは苦しんでいるというのを表面で見せることが多い傾向があります。しかし、砂漠に生えた美しい3本のバラでなければなりません。彼女はそう感じているのです。周りの雑草が気に入らないとしても、泣き言、憐れむわけではないのです。姉妹たちを不幸で哀れな姉妹と思わないこと。マーシャはクルイギンの元を去りたいと思っていません。現在の女性の感覚では、他に男性を探すでしょう。しかし彼女にはそのような感覚はありません。彼女は誰も結婚に失敗したと感ずかれない、夫が頭が悪いと知られたくないと思っています。

ヴェルシーニンは最初マーシャにとって気になる存在ではなかった。ヴェルシーニンは女好きです。家庭を整えようともせず、仕事を優先するわけでもなく、たまたま訪れた知り合いの家で美しい女性たちを見る。イリーナは若すぎる、オリガは所帯染みている、マーシャが丁度いい、自分はあまり若くな



い、哲学でこの女性をものにしようと語るのです。これはシニカルな見方です。このような観点もあるということを皆さんに話しました。極端に乱暴で粗野なものではないと思いますが、全て見落としてしまうのも良くないでしょう。

この家は女主人の家です。トゥーゼンバフがあらかじめヴェルシーニンの情報をみんなに話していますよね。彼の登場を滑稽でおかしな男が来ると予告しているのです。2 ページにわたってモスクワから来たのと質問します。3 人のバラはモスクワに興味を持っている、モスクワから可笑しな、滑稽な男がやってくる。「あなたがモスクワから？ ありえない。私たちこそモスクワから来たのよ！」葛藤があるはずです。

次のエチュードはチェブトイキンですね。場所は墓地でしたね。とても興味深いエチュードでしたが、プロゾロフ家の母親、父親のお墓は一緒ではありませんので時間と空間に矛盾がありました。しかし、父親、母親、チェブトイキンの関係が見えたいエチュードでした。

次はアンドレイですね。このエチュードまでに指輪のエチュードが多かったのが大変でしたね。詳細までこだわった良いエチュードでした。

次はアンフィーサ。昨日より良くなりました。今回のワークショップでアンフィーサとフェラポントと登場させるかが問題です。登場人物の立場が大切です。空間、人々とどのような関係を持っているのか？ もしこの2人を取り上げるのであれば性格なしでは演じることができません。この中でこの登場人物をどうしてもやりたいと願う人はいますか？ まだ皆さんは若いので将来やるということで今回はこの2人の登場人物を取り上げるのはやめましょう。

※ ワークショップで使用した台本は【新潮文庫 チェーホフ作 神西清訳 「桜の園・三人姉妹」】より「三人姉妹」の第1幕を使用しています。